

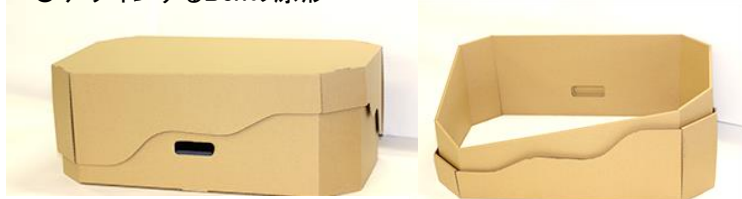
長井市の『BabyBoxプロジェクト』に 大宮エリー氏が参画することが決定しました！

■絵本や映画など様々な分野で活躍されている 大宮エリー氏が、長井市が地方創生の一環として取り組みを進めている、まち全体で赤ちゃんに祝福を贈る『BabyBoxプロジェクト』のBoxデザインのデザイナーとして参画いただくことが決定しました。



撮影Kenta Aminaka

●デザインするBoxの原形



フタ部分のカーブは長井市の豊かな「水」をイメージ。
斜めにカットされているのは、ベッドとして使いやすく、
赤ちゃんの顔が見えるようにするため。
このBoxの表面のデザインを大宮エリー氏が手掛ける。

総務省のビジネスアワードの採択や東北初のガバメントクラウドファンディングの挑戦などによって、今注目を集めている山形県長井市の「BabyBoxプロジェクト」は、地域の企業や職人と共に長井ならではの育児用品を考案し、ひとつのBoxにまとめ、生まれてきた赤ちゃんをまち全体で祝福するプロジェクトです。地域おこし協力隊として首都圏から移住してきた隊員が発案し、地方創生の柱に「教育・子育て」を据える長井市の目玉事業として、平成29年4月からBabyBoxの配布を開始する予定です。

今回、BabyBox本体のデザインを大宮エリー氏に手掛けていただくことが決定しました。

大宮エリー氏のデザインによるBabyBoxは長井市で生まれる赤ちゃんへの配布の他にも、ふるさと納税の返礼品やNPOによる首都圏のデパートなどでの販売も予定しています。

【大宮エリー氏 プロフィール】

作家／脚本家／映画監督／演出家／CMディレクター／CMプランナー

1975年大阪生まれ。映画「海ではなし。」で映画監督デビュー。主な著書に『生きるコント』『思いを伝えるということ』（文春文庫）、『グミとさちこさん』（絵・荒井良二／講談社）、『物語の生まれる場所』（廣済堂出版）、『猫のマルモ』（小学館）、『なんとか生きてますッ』、心の洗濯ができる写真集『見えないものが教えてくれたこと』（毎日新聞出版）、画集『EMOTIONAL JOURNEY』（FOIL）、など。

演出として「GOD DOCTOR」（新国立劇場）、2009年に「SINGER 5」（紀伊国屋ホール）を発表。また、2007年よりテレビドラマの脚本、演出も手がけている。「木下部長とボク」「三毛猫ホームズの推理」（脚本のみ）など。

2012年より来場者が参加する体験型個展を数々発表。2013年より「A House of Love」（表参道EYE OF GYRE）。東京スカイツリー、池袋サンシャインシティにてプラネタリウムの演出。2015年、初の絵画展「emotional journey」（代官山・ヒルサイドフォーラム）、「painting dreams」（渋谷ヒカリエ 8階 CUBE）、2016年、美術館で初の個展「シンシアリー・ユアーズ」（十和田市現代美術館）を開催。同時期に商店街を使ったパブリックアートを手がけ、初の写真展も開催。

●本件に関する詳細は、下記までお問い合わせください。

山形県長井市地域づくり推進課（担当） 地域おこし協力隊 佐藤亜紀

〒993-8601 山形県長井市ままの上5番1号

TEL 0238-87-0817 FAX 0238-83-1070

E-mail n-chiiki@city.nagai.yamagata.jp

長井市の概要

山形県南部の置賜地域に位置する人口2万8千人のまち。市の名称は「水の集まるところ」に由来し、古代から水が豊富な地域であり、河川や水路を利用したまちづくりが進められてきました。西置賜地域の中心市として都市機能を有していますが、若者の地元離れや少子化は他地域同様に進んでいるため、子育て世代に選ばれる自治体を目指して、教育や子育て、産業振興に取り組んでいます。

「BabyBoxプロジェクト」とは

長井市の「BabyBoxプロジェクト」とは、地域おこし協力隊の佐藤亜紀隊員が発案し、市とNPO、企業の共創で進めている事業。市民、企業、伝統工芸を創る職人と共に、地域の魅力が入った製品（主に育児用品）を企画・制作し、BabyBoxの中に入れ、市内で生まれた全ての赤ちゃんに贈ることで、地域の魅力を子育て世代と赤ちゃんに伝えと共に子育てをまち全体で応援していこうというプロジェクトです。また、市外にはふるさと納税の返礼品、NPOによる首都圏のデパートでの販売を通じ、地域の産業振興とまちのPRも目指しています。

■BabyBox製品として準備しているもの（一例）

「漆と縄のモビール」漆器職人 Cielo（シエロ）

＜背景＞ 長井市の伝統工芸品は地域の若い世代にはあまり知られていない。後継者が不足している。

＜目的＞ 伝統工芸の関心を高める。工芸体験を合わせることでパパやママと地域の交流を創る。
産業の振興（伝統工芸品の新たな販路の開拓）

「ベビーベッドにもなるBabyBox本体」(株)加藤紙器

＜背景＞ 長井市は製造業が主要産業であるが、個々の企業の技術や魅力が市民に伝わりにくい。
また、最終製品が少なく、付加価値の高いものづくりへの転換が求められている。

＜目的＞ 産業の振興（有名デザイナーとの共創による付加価値の創出）

「市民公募で選ばれた 長井の読み聞かせ絵本」長井市民×(株)サンノー印刷

＜背景＞ 地域の魅力を地域の人にはあまり知らない。多様な経験やスキルを有する市民の活躍の場が少ない。

＜目的＞ ふるさとを愛する心を育む。地域の魅力を市内外にPRする。
絵本製作を通して市民の活躍の場を創出する。

●本事業は、ガバメントクラウドファンディングも活用しています。



昨年、ふるさと納税の仕組みを適用したガバメントクラウドファンディングに挑戦しました。

長井市BabyBoxプロジェクトの挑戦に、全国から80万円の寄附とたくさんの応援メッセージをいただきました。

いただいた寄附金は、参画企業や職人、デザイナーとの商品開発等に活用していきます。



地域おこし協力隊 佐藤 亜紀 プロフィール

長井市地域おこし協力隊 / NPO法人aLku 代表理事 (<http://npo-alku.jp>)。

1987年、神奈川県川崎市生まれ。2015年4月に「自然の中で子育てがしたい」と山形県長井市に子ども2人と移住し、地域おこし協力隊に就任。

BabyBoxプロジェクトを発案し、2017年4月の配布に向けて子育てをしながら活動している。「BabyBoxプロジェクト」は総務省のビジネスアワードに採択される他、NEOプロボノイニシアティブの支援先にも採択される。また2016年11月27日に地域おこし協力隊全国サミットにて現役隊員の代表に選ばれるなど、現在注目されている協力隊の一人。

【掲載メディア】山形新聞、フィディア総研「FutureSIGHT」、山形放送「提言の広場」、YBC「ピヨ卵ワイド〜新山形人〜」、NHK「おはようニュースやまがた」など。